明治卅六年四月五日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

家庭雜誌

第三巻
第十號

明治三十八年十月二日發行

家庭者としてのヂッチンス（渚山）……一
○自助自營の人　○情深き人　○卒直なる人
○規則正しき人　○家庭に忠なる人
結婚奇聞……六
薄命怨（詩）……七
秋の遊興……八
子を得たる時の感（中尾傘瀬）……九
オカアさまのお話材料（小供のお伽噺）……一四
家庭園藝（二葉）……二〇
○草花の蒔き方　○十月の園藝
親の敎育……二四
結婚後の女子と舊師友……二八
破鍋綴蓋の記（利彦）……三〇
筆ついで……三一
記者便り、新刊紹介……三二

由分社
東京市麴町區元園町壹丁目

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

堺利彦著

半生之墓

（定價金卅五錢）郵税を要せず

再版

▲目次△哀史梗概△不知所往列傳△僕にもオバアさんが欲しい△小供の導き△細君の説法△敵△一人の要する土地幾許△別莊拜見の記△獄中生活△風流乞食△永久の滿月△予の半生等あり

●「予の半生」中より左に二節を拔く

「予は予の半世を人に語りたく思ふ。去年の暮、平民社の木下、幸德、西川、石川の四君と共に懺悔會を開いて、各々その半生の歷史を語つた時、予はそれを其まゝ平民新聞の紙上に發表する積りであつた。然し、それは都合あつて止めにしたが、今は丁度その發表の好時機を得たので、玆に大略の事を物語らうと思ふ」（冒頭一節）

「ア、是で胸がスツとした。言ひたい事を言つてしまつた。書きたい事を書いてしまつた。包んで見ても、開いて見ても、予は只だ是だけの男であるのだ。遺傳に刺激せられ、境遇に壓迫せられ、周圍に引張られ運命に導かれ、種々雜多なる感化影響を受けた結果が、即ち斯くの如き「予の半生」であるのだ。更に之を喩ふれば、溪間に湧いた苔清水が、或は泥田の上を流れ、或は小石の間を流れ、或は雨水に其量を增され、或は毒水に其質を汚され、或は岩に激して沫となり、或は崖に遭ひて瀧となり、十里、二十里、三十里、流れ〳〵て行くに似て居る。あゝ此の先は何處に流れて、一層澄むやら濁るやら、如何なる海に入る事やら」（結末の一節）

取次所　東京市麴町區元園町一丁目　由分社

●本誌定價及廣告料

一部	一ヶ月	六ヶ月	一ヶ年	全國
金六錢	金六錢	金卅二錢	金六十錢	無遞送料

廣告料——特別一頁十圓、普通一頁七圓

注意

一、本誌は毎月一回（二日）發行とす。

一、本誌の購讀料は小爲替を以て御遞送の事。
　但し郵券代用の節は五厘切手にて一割增の事。

一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。

一、爲替振込局並に受取人は無指定にてもよろし。

明治三十八年九月廿九日印刷
明治三十八年十月二日發行

發行兼編輯人　東京府豐多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地　西村惠治郎

印刷人　東京市京橋區日吉町十番地　中村彌助

發行所　東京市麴町區元園町壹丁目廿七番地　由分社

大賣捌所　上田屋　良明堂　東京堂　東海堂

印刷所　東京市京橋區日吉町十番地　近藤商店

定價金廿五錢
郵税金四錢　郵劵代用一割增

是から追々夜長になります。皆さんは毎夜お針もお忙しいでしようが又々お婆さんの肩腰をお摩りなさつたり、又は讀者やお談しも御坐いましやう。此本は新講話といつて、都新聞にのりました新講談であります。昔しの講談も隨分面白いものですが是は又新物の講談です、少し悲しい處も御座います外に緣切渡し。元祿武士杯極々氣のきいた附錄も御座います兎に角どれも皆何とも言へぬ面白味が御座います。

皆さんが此夜長におッ母さんやおばあさんの御休息の前で箇樣な本を讀み上げてお喜ばせ遊ばすも手近かな孝行の一ッかと存じます。妾もお母さんにお聞かせ申して姉さんに褒められました、ですから皆さんにもお勸め致します。

有樂社々員
八重子申す

發行所　東京市麴町區有樂町三丁目　有樂社　電話本局二〇九五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第五回內國勸業博覽會銅牌及褒賞狀受領

●壽美禮おしろい●

登錄商標

すみれ白粉は
菫おしろいは
壽美禮白粉は

歐米諸國に專ら流行する香料及弊店特製の化學的炭水素の新成蹟體等を以て調製しあるを以て總てを艶麗ならしめ芳香馥郁として長時間保續するの特性あり
芳香馥郁と長く保つが故宴會祝席雜踏の場所に衛生上良好の逸品なり
高等優美にして意匠も美妙なれば御進物に最も適當す方今東京横濱に於て上流社會に益々好評を博しつゝ流行せり

THE BEST MADE
SUMIRE
VIO ET PASTE
ヴワイオレット練製
[illegible]硝子器入
壽美禮おしろい

●壽美禮おしろい ねり製 定價（大罎 二十錢 / 小罎 十二錢） 水製 定價（大罎 二十五錢 / 中罎 十五錢 / 小罎 十錢）

ヴワイオレット水製

錫栓附乳白硝子壜入

●皮膚艶白劑●壽美禮あらい粉●

●弊舖製造の壽美禮洗粉の義は方今歐米諸國に專ら賞賛する香料及弊店新製の原料を用ひて製せしものなれば朝夕此洗粉を御用ひ給へば能くあかを落し御肌を美しくなす

●常に髮洗ひに用ひ給へば髮のねばりを取り油あか等を生ぜす又半襟ハンカチーフ絹綿等に用ひて能く汚垢を落す總て物を染白する性あり

●使用法は普通あらひ粉の半分にて能し水又は混湯に溶し又はぬかに混せ入浴の際用ふるを良とす

●綠、藍、紅彩紙箱ひボックス入 三錢 罐詰 六錢五厘 袋入 壹錢

登錄商標

SUMIRE.

Washnlg Powder

壽美禮あらい粉

製造本舖

東京東兩國
南兩國橋際元町

伊勢吉壽美禮堂謹製

販賣所は全國到る處小間物店化粧品店賣藥店其他各勸工場各劇場運動場に有り

歯科治療 自午前八時 至午後六時

神田區須田町二十六番地

歯科醫 吉瀬才市郎

勞働者諸君に限り藥價診察料共に御隨意
晝間執業者の便利上夜間十時迄治療仕候

寒山鑄造銅印規定

方條扁圓形隨意　楓橋式

○五分以内二字迄　○壹寸以内四字迄

○貳寸以内八字迄

以上壹字ニ付金五拾錢トス（別ニ印材代ヲ要セス）前金到着十日以内ニ郵送ス

住所番地氏名明記

下谷區下谷町壹丁目壹番地

山田寒山

外科皮膚病 梅毒 痔瘻 外科的婦人科 尿道器械的療法

診察 午前九時より十二時まで

東京 新橋際 出雲橋 加藤病院

院長 獨國醫學士 加藤時次郎

分院 横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時

小田原海岸 每月曜午前中

東京神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

東洋内科醫院

電話本局八八八番 一三八五番

院長 醫學士 高田耕安

診察 毎日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷隨時應需、火木土曜、窮者施診○病室增設落成

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱（停車場所在）

南湖院

副院長 醫學得業士 林止

診察 院長出診土曜日午後、副院長診察毎日午前、但日曜日大祭日休業、入院診斷隨時應需、土曜日午後施診

東京麹町區三番町三十番地（市ヶ谷停車場附近）

高田病院施診所

主任 醫學士 松田三彌

診察 毎日午前、但日曜大祭日休業、窮者ニ施診ノ上其病名及養生法ヲ示シ處方箋ヲ與フ○往診應需

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

改良ロンテニス
二重枠ラケット一組

一號品	一二、五〇〇
二號品	一一、〇〇〇
三號品	八、八〇〇
四號品	七、四〇〇
五號品	六、七〇〇
六號品	五、七〇〇
七號小學用	四、七〇〇
八號婦人用	六、〇〇〇
九號婦人用	七、〇〇〇

ピンポン室内テニス

一號	一箱	一、二二〇
二號	同	一、五〇〇
三號	同	一、六八〇
四號	同	一、八三〇
號外	同	〇、八八〇

改良テニスネット

一號	一張	四間半	一、七五〇
二號	一張	五間半	二、二五〇
三號	一張	六間	二、四五〇
四號	一張	七間	二、九五〇

ゴム入フートボール

二號	一個	四、〇〇〇
三號	同	四、五〇〇
四號	同	五、〇〇〇
五號	同	五、五〇〇
六號	同	六、〇〇〇
七號	同	六、五〇〇
八號	同	七、〇〇〇

體操遊戯器械一切

東京神田裏神保町五

安藤商店

電話本局四百八十四

家庭雜誌

第三卷 第十號

ヂッケンスの人格

〔家庭者としてのヂッケンス〕

一千八百七十年の七月九日、夕、六時と云ふ刻限に、英吉利の藝術界は端なくも一個の明星を失つた。當時人生の批評家として、評壇の一方に割據して居たカアライルは、此訃を聞くや否、直に筆を走らせて、『こは正しく世界的の一事件なるべし。非凡なる才人は忽ちにして其影を滅しぬ。彼の逝去は數多の國民にとりて『無邪氣なる樂事』の消失を注意せり。過ぐる十數年以來、余は絶えて今回の如き驚駭を齎せる人の死に接したる事なし。』と云ひ、衷心から深き哀悼の情を述べたのであるが、その所謂明星とは果して誰であるか。曾て日本の『膝栗毛』を讀み、西洋にもまたこれと稍々同趣向の滑稽小説あるを聞いた方は、必ず知つて居られるに違ひない。其人の名はチャーレ[illegible](Charles Dickens)今日世に傳つて居るそ[illegible]いて見ても直ぐ解る。額廣く、耳大きく、鼻は大きく、更に頭蓋も偉大に、少し眦の垂下つた二皮目には、涯なき柔和の色を浮べ、蟀谷の上に面白く渦捲いた小鬢の毛は、もじや〳〵とした口髯と顎髯とに相對して、其裡に如何にも無邪氣な性格の一面を見せて居る人である。

彼世にあること五十有九年、其中殆んど五分の三は純然たる作家として、筆と紙とで生涯を送つた。先づ廿五歳の時に始めて出版した『スケッチエス、バイ、ボッズ』と『ザ、ピクウヰツク、ペーパアス』より、『オリヴア、トウヰスト』次は、『ザ、オールド、キユリアシテイ、ショップ』『ドンペー、アンド、サン』『ダヴヰド、カッパアフヰルド』『ブレーキ、ハウス』『リツル、ドリット』『エ、テール、オブ、トウ、シテイス』『アワア、ミユーチユアル、フレンド』と云ふ順序で、此外短いクリスマス小品や、觀察雜記などを合はすなら、大略數十篇

の上に出でるだらう。彼が藝術品の眞價値に就いては、固より第一流の席次を下らず、第二の沙翁と呼ばれた丈に、零砕の一短篇の上にも、美にして且つ廣き想と術とが歴々として顯はれて居るのである。米國のダニエル、ウエブスタアは、ヂッケンスの作物が事實に於て社會に及ぼした効力の顯著な事を述べて、『ヂッケンス一人の筆の力は大英國々會内堂々たる幾百の議員や政治家の論議にも勝りて有効なりき。絶望に瀕せしが如き下層社會の狀態に、强烈なる生命を吹込み、斯くて彼等を廓然たる自覺の境地に導きて、間接社會改新の氣運を呼びたりし効蹟は、全く彼が温き同情の結晶たる著作物に待つ所多しとなす。』と稱讃したが、事實なべての國民は彼の作品を單に圓熟せる美術品として見るのみならず、其中より更に何等かの意味を發見して、常に心地よき皷舞や督勵やを享ける利益を得て居た。とは云へ、余はこゝでヂッケンスの藝術を批判し、若くはこれを特に紹介しやうとするものではない。余が本號に於て、斯かる題目の下に所感を述べたいと思ふの

は聊か突飛であつたかも知れぬが、また多少見る所がないでもなかつた。即ち、余の觀察點はヂッケンスが生涯の文學的方面でなくして、其『人格』の上にある。これを一層狹くして云へば、正に『家庭者としてのヂッケンス』を描かんと欲するものである。或る人は云ふであらう。彼は果して君の所謂『家庭者』なりしやと。然り、『家庭者』は『人格』なり。『人格』は即ち『家庭者』である。人格は才能ではない。高貴なる人格の存在は畢竟高貴なる家庭の存在を意味す。今余をして直に其事實の說話に入らしめよ。

其一、ヂッケンスは徹頭徹尾自助自營の人であつた。それには、彼が幼時に於ける家庭の境遇を一通り述べる必要があらう。父親は薄給の一官吏、而かも性來が親切な好人物である爲に、他人の負債などを負込んで、始終金策の事にのみ骨を折つて居た。ヂッケンスが九歲の時には親子兄弟合せて八人の大家內、ロンドンの場末の九尺二間に日蔭者の生涯を送り、三度の食事にもどうかすると差支へた位故、無論學校で正式の敎育を

受けるなどは思ひも寄らぬ事であつた。其内に父親を始め一家族は負債消却滞りの爲に擧て獄屋の人となり、彼一人十三の齡を以て、終に靴墨製造所の職工として雇はれる事となつた。續いて、十六の歳には辯護士事務所の給仕に住込み、斯くて月々に受ける三圓餘の報酬は、悉くわが家の生活費補助として用ひられ、實際書物一冊購ふ餘裕もなかつたらしい。斯くして、十九歳の時に父の後を継いで、卑い議院の一役人となつた迄は、全く哀れなる正札付貧兒であつて、其間に學校の門をくゞること僅に數個月。されば、他の少年が清潔なる教室に在つて、安樂に智能を磨き、或は山河を跋渉して只管運動遊戯に耽りつゝある時間を、彼は早く既に浮世に出て備さに生活の辛酸を嘗め盡して居たのである。斯かる間に、彼は一體何うして書物を讀んだのであらう。其素養は何時貯へたのであらう。其思想は何時養つて置いたのであらう。世の人の多くはこれを天才力の致す所と判斷するけれど、彼は決してバイロンやシエレーの如き純天才の人ではない。一面に於ては常識の缺くる所なき、云はゞ一個の實際家であつた。余は此間の不可思議なる消息を説明するに當り、結局彼が自助自督の人たり、併せて刻苦精勵の人たる事を信ぜんと欲するものである。後、彼が善き父として、學校に在る其子の許へ遣はした手紙の中に、『私は何を企るにも私の全身の精力を惜まず使つた。如何なる些細な事物にも、それに人間の全力を濺くならば、其些細な物は忽ち千金の價を放つであらう。』と云ふやうな一節があつたが、彼は實に何事にもこの調子で、倦ます撓ます努力し奮勵したのである。

第二、ヂッケンスは心の優しい、そして情深き人であつた。かの少し眦の垂下つた兩の眼には、何時も態とならぬ涙のうるみが見えて居る。彼に一度面會するならば、如何に冷き心の人でも、直に一種の温情が其血管に動くのを覺えて、離れ難き引力に魅せらずには居られなかつたと云ふ。その筈であらう。彼は世の中に惡人なしと信じて居たのだもの。啻に妻子の愛に厚く、友誼の情に濃やかな計りでない。人類のすべてに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

對して、始終萬斛の愛念を捧げて居たのである。妻の妹のメリイと云ふのが、十七の花の蕾も敢なく此世を去つた時、彼は實際慟哭した。後日、彼が親しい友の一人に、述懐を書いて送つた事があつたが、其手紙は心なく只讀むものにさへ、しんみりと身に染むやうな感情を起させ、ありし昔の美しき乙女の面影がありありと眼前に顯はれて來る。それ程に、彼は其メリイを思つて居た。但し、これには尙ほ表面以外の理由が一つある。露骨に云へば、メリイは何を隠さう彼の意中の人であつた。けれど、此邊の事情は餘りに深く問はぬが好い。只ヂッケンスの淸き心を知り、正しき行爲を知る人丈が、この秘密を胸に疊み、戀と運命との衝突が如何に世の中で悲しきものなるかを私かに沈思すれば善いであらう。

　彼は涙の人であると云ふ事に、まだ一つ著しい證據がある。それは、彼がクリスマス小品中の一つ『クリスマス、カロル』を書いた時の話で、貪慾飽くなき主人公のスクルーヂにも、彼の心底には同情で以て溢れて居たのである。初めてこの短篇の稿が成つた時、彼は篇中の人物を思ふて一度び泣き、次に笑つて再び泣いた。終には其胸に餘る悲しき情想に堪えかねて躍り起ち、深夜人の寐靜るのを待つて、薄暗きロンドンの裏町を彼方此方と十哩餘もそゝろ歩き、そこで思ふ程の冥想に耽つた事が幾夜も續いたと云ふ。

　第三、ヂッケンスはまた頗る率直で、殊に飾氣のない人であつた。假令へば、彼の亞米利加漫遊の折の如き其一例で、判斷がすべて公平無私、只是を是とし、非を非とするより外に何物をも知らなかつた。飾氣のないと云ふ點の説明は、逝去の際發見した遺言狀一通で以て盡きて居る。即ち「一、葬式を華美にし、見榮の爲に外觀を繕ふ事は嚴禁の事。二、葬式の場所又は埋殁などを行々しく吹聴する事を廢し、且つ、志ある會葬者一同には六ケ敷い正式の服裝を着けて來る事を謝絶する事。三、石碑の文字は英字を用ひ、「ミスタル」「エスクワイヤ」等の尊稱は挿入せぬ事。などが主なる項目で、外に二つ三つ、それも順序正しく書付けてあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つた。そして、丁度其永眠の日から五日目に、極めて質素なる葬式が遺言通りに行はれたが、それでも、隨分夥しい花束が全く知らぬ人の手から投げられもすれば、赤の他人から、眞に美しき哀悼の涙を其靈前に受けた事も數知れなかつた。

第四、ヂッケンスはまた規則正しき人であつた。人間の弱き精神は修練して、確實なる信念を涵養し、其生涯をして漸く且つ高きに居らしめやうとするには、先づ居常の座作進退の整頓から着手せねばならぬ、と云ふ考へを彼は持つて居たらしい。彼の離床は大抵七時、朝と晩との課業として、必ず一回の冷水浴を怠らず、別けても、其壯年時代の如きは、朝餐を取る前に三十哩斗りも馬にて運動し、午后は二十哩位の小遠足を試み、夜はペンシルと手帳とを持つて、ロンドンの市中を觀察して廻ると云ふやうな、其樣な大仕掛の日課を嚴かに實行して、少しも倦む事を知らなかつたのである。

最後にヂッケンスは家庭に忠なる人であつた。彼が始て父となつたのは二十六歳の時で、爾來短きは一年、長くとも三年置きには一兒宛を産み、終に十人の子供の親となつた。若しかの生々蕃殖と云ふ事が、人道に合致した尊い事業であるとすれば、これ丈でも既に普通人以上の貢献と云つても差支へない。彼が此等の多數の小供に對して、如何に善き父親であつたかは、大抵想像でも解ると思ふ。先づ假りに『ダヴヰド、コッパアフヰルド』の序文に就て研究して見やうか。「種々作つた小説中で、一番の可愛兒に此冊子である。この空想の家族に對して、私は眞に優しい父親であつた。世間には私程に小供を愛する父はない……」實に心の儘を包み隱さず白狀したものである。それから、今一つ彼に就て床しい話がある。丁度其小供の中の一人が誕生節の祝會を催すと云ふ三日斗り前、ヂッケンスは小供等に引張出されて、頻りに舞踏の稽古をさせられて居たが、何分にも骨格が硬く、手足の活動が不細工なので、小供等が此大きな生徒に『ポールカ』一曲教へ込のに大抵の骨折ではなかつた。それは兎も角、其内に愈々祝

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

會當日の前夜迄迫つて來た。彼は寢床に身を横へつゝ、手眞似などをして例の復習を續けて居る內、不圖中程で行詰つた。如何しても次の伎が思ひ出せて來ぬ。正しく忘れたのに違ひない。彼は餘りの殘念さに舌打して悶えたけれど思ひ出せぬ。終に、彼は無言で寢床から這出した。這出して室の中央に衝立ち、折から冬の夜の肌に染込む寒さにも厭はず、極めて眞面目に熱心に、『ポールカ』を繰返し〳〵實習するのであつた。その可笑しく滑稽なる姿、その心の罪なさ加減、余は實に此瞬間に於ける彼の心事を、神の心に擬せんとするものである。

右の外、尙は慕ふべく、愛すべく、尊ぶに足るべき品性の光りは幾何もあるが、必ずしもそれを悉く掲げる必要はない。余は以上の五點に依つて、チッケンスが著作の文學的價値以外、別に生きたる人格、生きたる實際生活の上に如何ばかりの光輝を持てる人なりしかを、一通り會得する事が出來ると思ふ。（椿山）

因に。彼が三十九歳（一八五〇）の三月に創刊した「家庭雜誌」(Household Words)は今では千何百卷と云ふ卷を重ねて、相變らず英國の家庭に愛讀せられて居る。無論持主は變つて居るけれど、雜誌の名の下には Founded by Charles Dickens と明かに名乘つてある。

◎結婚奇聞

▼又とこんな珍しい妻定があらうか。所は露國のさるところで、世界無類の妻定め會が行はれて居るとのこと。

前以て定めた日が來ると、若い男女はさる家に集る御馳走が出る、歌ふ、舞ふの大騷ぎが濟み、定刻を待つて其家の主婦は集つた娘達を一室に導き、座らせて置く。

何に致せ人間一代の大事、殊には女のことゝて騷くペチャペチャ喋る。クス〳〵笑ふ。だが、こそは豫て承知づくのことゆゑ、主婦の命で細君候補者は何れも一名づゝ敷物で包まれてしまふ。まではよいが、頭でも髮でも身體丸で柏餅、誰が誰やら一向解らないのが面白い！

すべての娘達が包まれてしまふや、新聟は抽籤で其室に這入つて行く。ところが見違ひどころではない。暗中物を探る樣な話で、此が我が妻よ彼が我がものと、勸業債劵よりも激しい運まかせの撰擇で細君を定むる。

開けて見たらば玉手箱、悄然頭を垂るゝ徒もあるかと見れば、欣然雀躍する聟もある。

掟が又仲々面白い。かくして定まつた夫婦の一方が若し頭を振るやうなことあれば、それこそ大層の罰金！そして此細君撰定會の决果は非常の好成績とのこと。

▼まだ〳〵こんな珍らし妻定めがある。那威のさるところでは、妻を定むるに嫁聟の徒步競走が行はるゝとのこと。

つまりは女の方が勝ては破談になるのだが、全競走距離の三分一だけ女の方は先へ出てゐるのだから、女に氣が無い時は男に勝つことらさして困難でない。若し又まんざらでもなければは、男に勝たすればよいわけである。

薄命怨

山口孤劍

矢部鹿野女史は海軍大佐矢部某の室なり。女史佐賀に生れて才色並び秀で、淑婉花の如し。初め同郷の人某に嫁せしが、夫に先き立たれて後東京に來り、矢部海軍大佐に迎へられて、平和なる日記をくりかへす間もなく肺疾に犯されしを、大佐は冷酷の質、傳染の恐れありとて近づきて病だに看ることなく、剰へ口ぎたなく罵りて、虐待酷遇至らざるなかりしが、涙を呑んで堪え忍び來りしも、遂に其の死を諷せらるゝに逢ひ、其心は露草の如く擊たれてしほれはて、滿眼の涙涸れつくして死なむ哉。伊豆の海、月青く風寒く、怒濤巖角を洗ふ處、蛾眉空しく泡沫に委しぬ。年僅かに二十有七。

戀の牧場を失ひて
深山がくれの雛菊の
青き光の夕月に
わびしき年をおくりしが

燦く家にはこばれし
君し悲しき運命なれ
呪の蛇は美はしき
衣の裳にひそみしを

草笛きゝてあつまりし
羊は野邊を鮮血に染めぬ
愛に誓ひし唇は
君し屠る斧なりき

怒濤さわぐ其の胸に
涙の舟をうかぶとも
刑棘するどき言の葉に
弱き心の扉はやれぬ

やがて消えゆく夕虹の
女の身こそ悲しけれ
青き潮の底ならで
君がゆくべき隱れ家は

綠まばゆき其の髮は
海の藻草にまつはりて
大理石より清き其の額は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

巖の上にくだけたり
神しゐまさば女子の
流るゝ血潮拭はむを
淸き心の君にして
いたつきえしは罪ならず

夕波さわぐ巖陰に
磯の藻草のしめるまで
聲をかぎりに泣けばとて
歸り來まさむ君にあらずして

○秋の遊興

去る十日の日曜日にトゥマス、ハワード氏の御宅を訪れ、種々のおはなしの末、英國の田舍の遊びについてチョット面白く伺ひましたから、時節柄とて左に紹介いたしませう。(永島扇子)

私の母の住んで居りますのはヨークシャイアと申すところで、每年秋になりますとピクニックがあります。辭書にも充分の意味に譯してありませんから、日本の御方には分り惡ふござりませう。ある人は「野遊」と申します。マアそんなものですが、それよりも楽しいもので御座いまして、若い男や女が日を定め、必要の品を携へて森へ行くのです。愈々定めの場所へ參りますと、思ひ〳〵に楽しみ事をして遊びますが、やがて食事の用意に取り掛りますので、今まで湯を沸したこともないものが、料理を始めて、他のものは草の上へ布を敷いて、凡て浮浪人同樣のやり方で楽しむのです。ですから、貝い衣服など着けるのは止めた方がよいので、直に汚れます。私は可なりのワンパク者でしたから、若い時分にピクニックに行くと、立派に着飾つた御孃さん達に、ワザと汚れ仕事をやらせて、着物を汚すやうにしてやりました。秋になりますと、社交的集會が一層盛んに行はれて、舞踏會も隨分行はれます。英國の若い男や女は、舞踏がなければ、死んだ方がよいと云ふやうに思はれる位です。

十月には栗拾ひがあります。此時には若い組の連中が、栗を拾ふと云ふ口實で、出て參りますが、其實、栗を拾ふ事は至つて少なくして、大抵は森の中で、舞踏をしたり、遊戯に耽けるのであります。

次には、結構なる古式の「收獲祝ひ」があります。穀物が最後の運送車に滿載されますと、旗や、リボンで飾り立て、車上に子供等を載せて引き出します。やがて歌を歌ひながら、野に參りますと、種々の好いチエースを子供達に與へます。

以上私の申した事は、多く田舍の生活に關することでありまして、市街では若い男女は俱楽部を作つて居ますから、私がお話し申したよりも、變つた種々の仕方で、お互に楽しみ合ふと云ふ譯であります。

子を得たる時の感

中尾傘瀬

七月六日午前零時十五分、妻男兒を擧ぐ。吾等の間の兒なれば、固より修辭學的に形容して「玉のやうなる男の兒」とは言ひ惡けれど、實に肥え太りて、まる〳〵したる、言葉通りの赤ん坊なりき。其兒が母胎を離れて、四肢を跳ね動かし、始めて『オギア』の聲を發するや、余は常に斯かる場合を想像したりしも、亦今更のやうに忽ち心動轉し、周章したり――之を如何にすべきか。之れ抑ゝ何か。人間か。吾兒か。

此の瞬間、余が心意の作用は假に活動を始め、恰も何物かに襲はれて、胸ギクッと覺醒し、さま〳〵の夢中の幻像を追ふが如き心地したりき。

余は其時想ひ續けぬ。斯兒果して吾等の物なるか。如何にして斯兒は出で來たりたる。いづれより出で來たりたる。

然り「いづこより來たりしものぞ。」萬葉の詩人中、當時漢土に留學して、早く彼邦思想の感化を受けしてふ山上憶良も、斯く怪しみぬ。げにいづこより來たりしものぞ。支那思想の一源流なる孔子、既に「吾 未知生」を叫べり。憶良爭で人間の如何にして生まるゝを知らむ。われ豈に人間のいづこより來たりしを疑はであらむ。

子といふもの、願ひて得らるゝものにあらず。生まむとして生み得らるゝものにあらず。余は輒ち想ひ返しぬ。これ天の與ふる所にあらざるなきか。神の吾等に授けたまふ所にあらざるなきか。斯く想ひ來たると共に、何となう勿體なきやうなる、寧ろ怖しきやうなる氣持せられ、其氣持の底より、更に斯兒を尊敬せざるべからずといふ念、坐ろに泉の湧き出づるが如く迸り出づるを覺えぬ。

肉の關係に於いて、之を吾兒とはいへ、神より賜はりし一個完全の人格を具へて、此世に現はれ出でたるもの。吾等は當然之を尊敬せざるべからずと。余は斯く誠實に感じ、且つ信じたるなり。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

昔者、アダム、エバを知りて、カインを生む。エバ曰はく『我エホバによりて、一個の人を得たり』と。彼女は先づ『エホバによりて』といへり。然り、人間は神エホバによるにあらざれば、すべて能ふ所あるものにあらず。吾等の先祖の此の信仰は、又永く吾等子孫の服膺すべき信仰ならずとせむや。彼女、次に『一個の人を得たり』といへり。然り、生まるゝ兒は、すべて一個立派なる人格を具ふる神の作物なり。されば吾兒にして吾兒にあらず。元より侮るべくもあらず、虐ぐべくもあらず。之を大切に尊敬して、取扱はざるべからざるは論勿し。且や之に依りて、吾等は神の吾等を愛したまふを知り、又吾等をば主の榮を顯はすに足るものと嘉みしたまふを知るなり。

茲にエバの『一個の人』といへるは、最も意味ある言葉とおもふ。那翁の甞てゲエテを見るや、『予は彼に於いて「人」を看出したり』といへり。蓋し『人』とは高き人格、ダビデの所謂『只すこしく神よりも卑くつくりて、榮と尊貴とをかうぶらせられたるもの』にあらずして何ぞ。これ豈に人々尊敬すべきものにあらずや。約百曰はく、『人の衷には靈あり。全能者の氣息之に聰明を與ふ。大なる人すべて智慧あるにあらず。老いたる者すべて道理に明白なるにあらず』。小兒は最も人間の新鮮なる、未だ世より穢を承けざる、最も清き、最もうつくしき神の姿たるなり。

昔者羅馬のグラッカス兄弟の母コルネリヤ、或時一貴女の訪問を受けて、種々なる寶石類を示され、さて乞はるゝやう、希はくは貴夫人の寶玉を見るを得むと。コルネリヤ直ちに二人の兒を呼び寄せて、『これぞ我が誇り得る寶玉のすべてなる』と答へけりとなむ。げに子は人間の寶の中、最も美はしくして最も尊きものなるかな。コルネリヤの逸話は、余の本論を資くるにさして力あるにあらずと雖も、寔に我邦の婦人、家庭の母たる人の箴誡たるに足る。憶良又歌うて曰はく、『しろかねも、こかねも、たまも、何せむに、子にしく寶、世にあらめやも』。げに『子寶』とは、人情を穿てるの俗諺なるかな。

次に余の感じたるは、子の愛すべきことなりき。實に余は子の生まれし時、未だその愛すべきを知らざりき。先づ初に、子の尊敬せざるべからざるを感じて、良ありて其愛すべきものなるを感じたるなり。尊敬が先にして、愛情は後なりき。之は余自身にも稍不思議の感あれども、此告白は僞るべからざる事實なり。若し諸君が斯かる場合に得られたる感あらば、聞きたきものにこそ。

さて前にも云ひし如く、わが子の生まれし時は、赤ん坊といふ名稱通り、赤い、圓い、小さいものなりき。さりとて、竹取の翁が、黃金に光る竹の節より得たりといふ赫夜姫の如く、形三寸許にして、子になるべきやう思はれければ、掌の裡に入れて歸りぬといふ程に、左程に小さきものにもあらざりき。また天日矛の妻となりし阿加流姫の如く、恒は賤夫の腰に裹みて著けられたりといふ赤玉のそれにも似ざりけり。寧ろ初生兒としては、大きなる方にして、見る人皆な生後少なくとも一月は經たらむほどの發育なりと云ひ囃しき。此時何となう親心の嬉しみを味ひぬ。されば、直ぐにも體重を衡りたかりけれど、手許に適當なる衡器もなければ、抱心地にて、優に八九百目はあらむと、吾等笑み傾げたるのみ。

生まれし兒をつく〴〵と見て、あゝこれこそ吾等の血肉を承け繼ぎたるものなれ。吾等の二十四の細胞と色素とは、今抱合して一體のものとなり、斯兒となりて現はれたるなり。斯兒の衷には、第二の『我』あるなり。我の精神も生命も承け繼ぎ宿らされたるなり。吁我が成し遂げざりし事業も、未だ成熟せざりし思想も、斯兒に依りて傳へらるゝかな。あゝ我嬉しとも嬉しからずや。

斯く想ひ來たれば、血の如く赤き赤ん坊に對する愛情は、油然として簇がり生ずるを覺えき。此の愛情は、如上の發生の順序に於いて、正にショッペンハウエルのいひけむ、『父の愛は形而上學的なり』との意義に合致するを想ふ。ショッペンハウエル又曰はく、『母の愛は全く本能的にして、動物が乳を與へ、乳を覓むるが

如し。」と。果して然るや否や、此の點は余婦人にあらざれば、誤らざる判断を下すこと難し。之も女性諸君の實驗に聞くを得ば幸なり。

今一ツ愛情と共に起てりしものは、安心なりき。自己の繼承者を得て、父となりし余は、實に愉快に、且つ安心し得らるゝやうに感じたり。即ち今後余若し余の事業に失敗し、人生の行路難に蹉跌することあらむも、我の後續者あればとおもふ安心を得たるなり。此の意義に於いて、余は世間子を得て心配多くなりぬといひ、後顧の憂を增しぬといふもの甚しき身勝手、思違なるを主張せむとす。余の如きは、子ありてこそ心配なく、後顧の憂なく、欲ふ所に直前邁往して、所謂奮闘的生活にも入るを得べしと信ずるなれ。

次に感じたるは、父の責任なりき。先づ余自ら問ひぬ。余に父となる資格ありやと。天の授けたまふ貴き人格を盛れる神の作物を、傷けぬやう、損はぬやう、如何にも立派に生ひ立たし能ふか。これは大なる責任と謂ふべし。否、大なる事業と謂ふべし。昔ユダヤ人はエルサレムの宮を築くに四十六年を費したりといふ。吾等は此靈なる『神の殿』を護り立つる爲に、能ふ限りの力と考とを献げざるべからざるを、いと深く感じぬ。

次に感じたるは、子を生む母の苦痛を見て、婦人の犧牲といふことに想ひ到れるなり。凡そ婦人が子を生むは、大なる苦痛なるべくして、實に大なる犧牲的行爲なり。之に依りて、余は婦人の尊重すべきを知る。縱し一人の子を生むには、死ぬるが如き苦痛あらむ。然く甚しからずとせむも、少なくとも其處に『死』の問題に到る聯想の生ぜざるなからむや。斯かる苦しき經驗を嘗めて、辛うじて人生の義務、婦人の義務を果たし得ること、可憐にも亦同情に堪ふべき沙汰ならずや。

東洋の賢哲は曰はく、身を殺して仁を爲すと。婦人は生命を賭して、一人の子を生むなり。大なる仁、大なる犧牲的精神の磅礴せるものにあらずして、焉ぞ能く斯くの如くなるを得むや。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

實に婦人の一生を貫くものは犧牲なり。支那道德は婦人に三從を敎へて、幼にしては父母に從ひ、嫁しては夫に從ひ、老いては子に從ふといへり。余は元來支那道德の屢々人情を矯め、自然に悖り、剩つさへ人權自由を無視せむとする傾きあるを慊らずとするものなれども、此三從の敎訓が、人類の女性に暗示する所の犧牲的精神を可しと認むるものなり。

婦人の犧牲は人類世界の發達なり。此世の文明、進步、皆な彼女の胎を通して現はれざるは無し。彼女は人類すべての母なり。基督の母なり。孔子の母なり。ソクラツトの母なり。釋迦、マホメツトの母なり。此の意義に於いて、世界は彼女に多大の感謝を拂はざるべからず。パオロ、テモテに書を贈りて曰はく、『女は子を生むことに因りて救を得べし』と。素、然らざるべからざる理なるかな。

婦人の犧牲といふことゝ共に想ひ浮かべたるは人間の新陳代謝なり。これは他の言葉にていへば、種の生存なり。暫らく宗敎を離れて考ふるも、宇宙に何物か或絕對の不可思議力、若くは實在物ありて、其處に法則も立ち、秩序も行はるゝなりと見るは、少しく形而上學に思ひを潜めたるものゝ想像し、若しくは假定し得る所ならむ。而して、この種の生存とは、其不可思議力若しくは實在物の活動にして、ショツペンハウエルに從へば、更に明瞭なるを得るものあり。彼曰はく、男女相見て戀愛の感を喚ぶや、其一瞥一瞬の間に、種の意思は新個人に向つて活動し始むと。此意義に於いて、吾等の子といふものは、吾等の次代を形るべく、婦人の犧牲によりて、絕えず新陳代謝し行くなり。然らば婦人は人類全體より、殊に男子より、多く謝せられざるべからざる權利あるにあらずや。

然も新陳代謝の活動は、小兒自身に於いても體現せらるゝを見る。子が母胎を離るゝや、直ちに四肢を活潑に動かし、泣き且叫ぶなり。これは人間の活動の最初ならずや。ヨハネは其福音書の劈頭に『太初に道あり』といひしが、ゲエテは此語を推して『太初に活動あり』として、其意を彼が「フアウスト」の中に歌ひた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

り。斯かる仕方に於いても、小兒は吾等に種々なる人生の敎訓を與ふるなり。泰西の諺に、『小兒は大人の父なり。』とあるは、此意に於いても當れるにあらずや。

(附)吾兒の命名に就いて。　余は吾兒に『破邪』といふ名を撰びて付けたり。此名を撰ぶに就いては、種々考慮苦心し、先づ下の三要件を具ふるものといふを方針として、あれにもあらず、これにもあらずと、いと惑ひたりき。三要件とは、

第一、差名なきもの。

第二、發音よきもの。

第三、意義よきもの。

初め『革命』といふ名も好しからめとありしが、これは餘りに激しかりとて已めになりぬ。さらば寧ろ『叛逆』といふ名はとありしが、これは又更に餘りに奇矯に過ぐとて已めになりぬ。遂に破邪顯正といふ成句よりヒントを得て、破邪を國語ぶりに『はや』と訓ましめ、『破邪男』とでも付けむかと吾等夫婦の相談なりき。時に妻の曰はく、『なかをはやを』にては語呂惡し。寧ろ『を』を去りたらばとの抗議なり。余、それよからめとて、愈々『破邪』と据りぬ。『中尾破邪!』先づこれならば餘りに差名もなかるべく、發音もよし。(西洋風に Haja Nakao と呼んでもよし) 意義もあしからずと。吾等は親心に喜び合へり。但し近頃は時局に因みたる命名法多きよしなるが、吾兒の『破邪』は必ずしも露西亞の邪を破るの謂にあらず。人道正義の敵とならば、誰彼の容赦なく打破るべしと吾等冀ひての命名なり。又『破邪』とは破邪顯正と續いて、淫行大臣の聯想も厭はしけれど、破邪は熟語の結成上顯正を足下に踏み付けたる貌と見ば、左程不快にもあらじか。これも親心の笑止や。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

オカアさまのお話材料

昔或る所に太郎といふ男の兒がありまして、何うかして豪いものになりたいと常々思つて居りましたが、只何もしないで豪いものになれる筈はありませぬから、お父さんやお母さんにお暇をもらひまして、旅行をすることになりました。

まづ或る森に通りかゝりますと、一人の樵夫が三抱圍もあるほどの大きな木を、恰で草か何かを拔くやうに易々と根こぎにしては、五六本宛路傍へ放投げて居りました。流石の太郎も其力の強いのに吃驚しましたが、豪らいものになるには、何でも斯様な力の強いものを味方に付けねばならぬと思ひまして『オイ何とお前は私と一所に仲間入りをする氣はないか、お前のやうな力の強い者は、私の仲間になれば屹度大仕事が出來るから。』といひますと、其男は早速承知しました。

さて二人が仲好く話をしながら進んで往きますと、此度は鐵砲を構へて何か射ちに掛かつて居る獵人に遇ひました。太郎は其獵人に向ひ『お前は左様して何を射つて居るか』と尋ねますと、其男のいふのには『これから一里先方の樫の木の葉に止つて居る蠅の左の眼球を狙つて居る』と答へました。スバラシイ眼力に太郎は再び驚きましたが、此の獵人も一通りならぬ眼の力を有つて居るものだから、かういふ者を仲間に入れたら豪らいものになれるだろうと思つて『お前は私と一所に仲間入りをしやうではないか。屹度えらい者になれるから。』と云ひますと、これも直樣承知しまして此度は三人連になりました。此通りにして太郎は往く先き毎に、豪らい者を自分の仲間に入れました。

三人揃つて再び道を急ぎますと此度は七つの大きな風車が回つて居る所へ來ました。別段風も無いのに、ぐる／＼と回つて居りますから、ナゼ風もないのに此の大きな車が皆揃つてあの通りに回つて居るのか知ら。』と不思議に思ひながら一里も來ますと、丸太に腰打ち掛けて居る男が居りました。其男は一方の鼻の孔を塞ぎまして、片方の鼻で呼吸を吹いて居りました。太郎は近寄つて『お前は其所で何をして居るのか。』といひますと、其男は、『此先に七つの風車が掛つて居るのを御覽でしたらう！私は其風車にかゝつて居る帆に風を送るために此所から息を吹いて居るのです。』と申しました。成程先刻見た風車が風もないのに回つて居たのは、此の男が此所から風を送つて居るからなのだ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ナ。」と氣が附きまして、其鼻息の一通りならぬのに感心し、これも前同樣に言ひ聞かして仲間に入れました。ソコデ同行四人仲好く話をしながら尙先きへ往きますと、後方から片方の足で步きながら、自分達を後に殘してスタスタと驅け拔く者がありました。太郞は之を呼び止めて、『お前は兩足で步かないで何故其通りに早く步くことが出來るのか。』と尋ねますと、『私の足は極く早いので、若し兩足で步きますと馬よりも、鳥よりも、風よりも、一層速いから態とゆる〳〵と步かうと思つて此通りに片々で步いて居るのです。』と答へました。又先きへ行きますと、此度は笠を橫向に被つて居る人に遇ひました。『ナゼ眞直に被らないでそんなに橫に被つて居るのか。』と不審を打つと、『此の笠を眞直に被ると、其蔭になる地面が凍つてしまひますから、わざと此通りに被つて居るのです。』と云ふ。此二人も前同樣に味方に引き入れましたので、此所で自分とも六人の仲間が出來ました。

此樣に力の强い樵夫と、眼利きの獵人と、鼻息の强い者と、足速と、笠を持つて居つた者と、太郞と、卽ち同行六人で揃つて往きますと、今度は或る街に來かゝりました。其所には其國の王樣のお布令が出て居りました。其お布令は王樣のお姫樣と競走をして、勝つた者には、其褒美にお姫樣の婿にすること、併し若し負けたならば首を刎ねてしまうといふことでありました。ソコデ太郞は王樣の御殿へ參りまして、『私はお布令に依りて參つたものでありますが、右の競走には代理人を使用つても宜しうございますか。』と云ひますと王樣には、代理人を使用つてもよいが、若し代理人がお姫樣と競走して負けたならば、其代理人も首を刎ねられるが、それさへ承知ならば宜いとのことでありました。太郞は歸つて自分の仲間の足速の男に相談しますといふと、素より豪氣なもので又足には覺えのある男ですから、勇み進んで承知しました。ソコデ、御殿へ其向を申上げ再び王樣のお布令によつて、何日何の刻に相方の競走者は、城下を遠く離れた或る名高い泉の水を汲んでくることに約束が定まりまして、各々其用意に取りかゝりました。さて愈々其刻限になりますと、御殿からはお姫樣、太郞の方からは足速先生、此度は命にかゝることであるからして兩足でもつてやることになりました。お姫樣も足速も各[illegible]携へまして、息を凝らして今や遲し[illegible]る。用意……一、二、三!!! の合圖

月刊家庭雑誌

家庭之友

羽仁吉一
羽仁もと子
執筆

第三巻第六號要目

東西家庭の長短（向軍治、浮田和民、島田三郎）

東京の中等生活（記者）
百圓の生活費、生活費の内容、生活の上手下手、收入を得るの困難、整理のしやう一つ、家族制度、餘暇、妻たるものゝ心得

▲余の見たる米國の婚禮▲祖母の命日▲我家の献立▲地方の母の會

家屋間取圖（山脇房子）家具新調の心得（佐治實然）子供の食物（ドクトル ホルト）家庭料理（宇山錄子）家庭問答（羽仁もと子）育兒問答（井上友子）秋の菜園（駒場生）地方の母の會

▲定價一冊金六錢郵税五厘一年分十二冊前金郵税共六拾錢○見本六錢

家庭之友合本

第一卷 自一號至十二號
第二卷 自一號至十二號

美くしい洋裝クロス綴金文字入の合本。この有益なる雑誌を初號から取揃へることができます。定價郵税共各冊金七拾錢づゝ。

木下祥眞編纂
女子の新職業
定價 郵税四錢

女學世界評＝獨立自營を欲する女子の必讀すべき良書なり平易明快なる談話體を以て女子の職業を説明する事最も親切を極む造花刺繍編物寫眞裁縫等の技藝的職業より郵便局事務員鐵道事務員保險會社計手銀行傭員電話交換手女子店員學校教員保姆看護婦産婆女髪結新聞記者速記者等に至るまでの各種職業に就きて仔細に案内的説明をなし其の修業法就職手續俸給等の事を具さに了解せらるゝやうに記述したれば職業を求むる女子の爲めには便益鮮からず（總ふりがな附）

木下祥眞編輯 **就業自活案内** 最近最新の調査 金參拾錢郵税四錢

五十嵐白蓮編 **新撰女子文範** 標註及び評語入 金參拾五錢郵税四錢

本田增次郎譯 **泰西女訓**（原名 婦人の五才）趣味あり教訓有 金四拾錢郵税四錢

本田增次郎譯 **黑馬物語**（原名 ブラック ビウティー）最良の家庭小説 金四拾錢郵税四錢

羽仁もと子著 **育兒の栞** 新刊 定價拾五錢 郵税二錢

嘉悦孝子講述 **料理法講習筆記** 新刊 定價貳拾錢 郵税貳錢

吉川潤二郎譯 **人生の行路** 全三冊 定價參拾錢 郵税四錢宛

少年園編纂 **こども**（再版）全十六冊合本發行 定價金貳拾錢 郵税貳錢

元 東京本郷區駒込西片町十番地 **内外出版協會**

中附一

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

野聲社機關（初號十月中旬發行）

文學雜誌

野の聲

毎月十五日發行
一部定價金十錢
郵稅一部金壹錢

野聲社宣言

野聲社は浮薄輕跳なる現代の風潮に抗して、森嚴なる詩美の奧殿に參し、時代の渇仰に省みて、宇宙及人生の眞趣を追求せんとす。

野聲社は淺劣皮相の文明を排し、僞美煩瑣なる形式的信仰に逆ひ、敬虔なる靈性の發達を促がして、直ちに絶對者の靈容に接せんとす。

荒野に花を飾らんは其使命也、沙漠に青きを點せんは其理想也。熱烈火の如き預言者の情想を陷みて、圓滿なる新國土建設の希望は其生命也。

内容｛評論　小說　美文　新體詩／短歌　俳句　雜錄等

（四六二倍　四十余頁）

東京市赤坂區青山南町六丁目百〇二番地

發行所　野聲社

▲本紙は婦人の味方となり時に社會の壓制と戰ひ時に婦人の鞭撻者ともなる

▲本紙は婦人を理想境に導かんことを期すれども尙現社會を忘るゝことなし

▲社會の根底は家庭に家庭の中心は婦人にあり本紙此點より社會改良を期す

▲本紙は婦人界を進歩せしむる根底の女子敎育にあるを信じ此方面に盡力す

婦女新聞

毎週月曜

定價一部三錢
三ケ月卅七錢
半年七十二錢
全國無郵稅

▲新しき婦人問題の論議を聞かんと欲する人は必ず本紙に來らざるべからず

▲婦人男女學界の出來事を知らんと欲する人は必ず本紙を讀まざるべからず

▲本紙は發行以來滿四年を經て今や漸く婦人界の一勢力と見らるゝに至れり

▲夫人令孃女敎師女學生にして本紙を讀まざる人は時勢に後るゝの恨あらん

東京市牛込區東五軒町四一

發行所（電話番町千三百六番）婦女新聞社

中附二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

由分社發賣取次書籍目錄

（郵税は總て本社にて負擔す）

- ●社會主義入門（平民社同人編）價拾錢
- ●消費組合の話（石川旭山氏著）價十二錢
- ●地上の理想國 瑞西（安部磯雄氏著）價十五錢
- ●社會民主黨建設者 ラサール（幸德秋水氏著）價十五錢
- ●土地國有論（西川光二郎氏著）價十錢
- ●富の壓制（西川光二郎氏著）價十錢
- ●經濟進化論（田添鐵二氏著）價十五錢
- ●革命婦人（平民社同人編）價十二錢
- ●百年後の新社會（堺利彥譯）價五錢
- ●理想鄉（堺利彥譯）價五錢
- ●英國勞働界の偉人 バアンス（西川光二郎氏著）價五錢

- ●小說 火の柱（木下尚江氏著）
- ●小說 良人の自白（上編）（木下尚江氏著）價卅五錢
- ●小說 良人の自白（中編）（木下尚江氏著）價卅五錢
- ●小說 良人の自白（下編）（木下尚江氏著）近刊
- ●家庭の新風味（堺利彥著）價壹圓
- ●家庭夜話（堺利彥編）價壹圓
- ●枯川隨筆（堺利彥著）價二十錢
- ●言文一致 普通文（堺利彥著）價廿五錢
- ●我家の犬猫（堺利彥著）價八錢
- ●半生の墓（堺利彥著）價廿五錢
- ●青年と生存競爭（安藤[illegible]毛宣著）價二十錢
- ●家庭雜誌合本（第二卷）價七十錢

注文所 東京市麴町區元園町一丁目 由分社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新刊廣告

實價六拾錢
郵稅八錢

母の心は一素封家の家庭を描出して、新舊思想の衝突、繼母子の關係、兄弟の情愛を細叙し、其日常平和の裏に驚くべき大波瀾の起れるを示す。即ちたゞに男女の痴情を說き、戀愛の靈をのみ謳歌するの類にあらず。中に涙あり、慰籍あり、一編事態の推移によりて憐むべき主人公の運命は、別に大なる教訓を讀者に與へんとするに至りては、是を家庭小說の上乘なるものといふも決して誣言にあらざるを信ず。春葉氏が穩健なる想と優美なる筆致は此好題目を捉へ來りて東京日々新聞紙上に連載し、類なき大好評を以て迎へられたり。今其完結を待ちて直に一冊の美本となし、將來家庭に於ける最良の讀物となす。

菊池幽芳著
家庭小說 乳姉妹 前編、後編 全二冊
實價各六拾錢郵稅各八錢

發兌元 東京日本橋區通四丁目角 春陽堂

はゆる〳〵とお[illegible]に後れて[illegible]いて[illegible]かに両足を踏み鳴して駈け出しました。その早いこと空飛ぶ鳥も及び難い位の速度で、見る〳〵影も形もないやうに飛んで往きました。さて足速は早速件の泉へ駈け着きまして瓶に水を汲んで、お姫樣が、まだグズグズして居る間に、道の半途も歸りました。足速先生思ふには、思つたよりは足の弱いお姫樣、此分では負ける氣遣はないから、此所等で一息休んで歸ろう。』といひながら、途傍に腰を下ろし、其所にあつた木の株を取つて枕にして、其儘何時か寢入つてしまひました。お姫樣の方では一生懸命になつて泉へ往つて水を汲んで歸つて來ますと、敵手が路傍で寢て居りますから偶然惡い心を起し、足速の汲んで來た瓶の水を撒いてしまつて、匆々歸りを急ぎました。サア大變……チヨツト油斷をした間にお姫樣に後れるばかりでなく、折角汲んで來た瓶の水を撒かれてしまひ、それも知らずにまだ寢て居るといふ次第、若しいつまでも目が覺めないと負けることは必定、もし負けるとすれば自分の頸を刎ねられるばかりか、太郎にまで迷惑をかけることになります。如何したら宜いでしやう？

して居る、[illegible]利きの[illegible]、今し[illegible]入つて居る足[illegible]の水をお姫樣が撒き散らす所迄も見て居る目には、寸時も落付いて居る譯に參りません。直樣兼ねて持つて居た鐵砲に彈ごめをして、足速に傷の付かないやう、其枕を狙つてズドンと撃ちました。足速は吃驚して目を覺まして見ますと、折角汲んで來た瓶の水はなくなつてしまひ、相手のお姫樣は自分を追ひ越して先きへ歸るといふ仕義、南無三……と飛び起きて、此度は前よりも、一層の速度で、再前の井戸へ往つて手早く水を汲んで飛んで歸りました。そして、幸にしてお姫樣よりは十分先きに着きました。

此通りに太郎の仲間が競走に勝つたものですから、約束通り國王のお姫樣をお嫁に貰ふことが出來る筈です。ところが王樣は、最初から只慰み事にして居ることであるから、それを承知することが出來ませぬ。お姫樣の方では尙更の事、まるで見ず知らずの人のお嫁になることを嫌ひます。併し初めの約束もあるものですから、其約束を無にすることは出來ませぬ。王樣も實に困りましたが、さてツク〳〵考へました揚句、とう〳〵太郎初め六人の者をだまして殺して了ひさへ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すれば、事の難義を鎮めてしまうであらう、といふ惡い了見を起しました。ソコデ太郎など六人の者を呼んで御馳走するからと言つて、床も、壁も、柱も窓も、戸もスッカリ鐵で拵へた部屋へ連れて往きまして御馳走を出し、そうして部屋の戸をピッシャリ閉切つて錠を下ろし、家來の者に言ひ付けて下から部屋が眞赤になるほど火を燒かせました。太郎などはかゝる謀計とは夢にも知らず、頻りに御馳走を食べて居りましたが、だん〳〵部屋が熱くなつて來ます。熱くなつて來るのも道理、床の下からドン〳〵火を燒いて居るのですもの――併し最初は別段に氣が付かず只御馳走を食べたから熱くなつたのだなと思つて居りましたが、見る見る室が熱くなつてモウドウモたまらなくなつたものだから、室から出やうとしましたがコハ如何に――、室の戸は前以て王樣が堅く錠が下ろしてあるのですから、衝いても押しても開かう道理はありませぬ。かうなりますと、何程眼力が利いても、いくら足力が速くても何程力が强くても、いくら鼻息が荒らくても一向役には立ちませぬ。ところが幸なことには彼の笠を持つて居つた仲間は、こんな時には間に合ふたものです。横に被つて居つて笠を眞直に直しますと、今まで眞赤に燒けかかつた部屋が俄かに冷却渡つて、食卓の上の御馳走なども凍つてしまうほど寒くなりました。

話變つて王樣の方では、六人の者は今頃はもう燒死んでしまつたであろうと戸を開けて見ますと、案に相違、六人共平氣で濟まして居ます。王樣は案の外の有樣に吃驚しましたが、これは屹度火燃の者が火を燃かないからであらうと思つて、床の下の方へ往つて『貴樣達はナゼ火を燃かぬか?』と責問けますと、火燃共の云ふには『イヤ決して王樣の御言葉に背きませぬ御覽の通り床は眞赤になるほど燃えて居ます。』と申上げました。成程床がとろけそうにまで燃けて居る。しかし六人は平氣で居ります。遂に王樣も持てあまし、太郎に云ひますには、お姫樣を御嫁にやることは出來ぬが、其更りお前が欲しいといふだけのお金をやるから、それで我慢をして呉れまいか、と云ふので太郎も早速承知、それでは私の仲間の中の一人の者が持るだけ戴けばよろしい、と申しました。王樣はそれは易いことだとて、直樣金を澤山持つて來まして渡しますと、太郎は私の仲間はこれ位どころではありませぬ。此百倍でも、千倍でも持つことが出來ますといひますと、王樣は心の内で、此奴大膽なことを云ふ奴、ソレジヤ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一つ困らしてやろうと國中の仕立屋を雇ふて廿日間も掛かつて大きな財布を拵へ、それに持ちきれぬ程の、澤山なお金を入れて渡しますと、太郎の仲間のあの力の強い樵夫は、片手でちよつと提げて試て、これ位では仕方がない、マダ／＼ドッサリ持つことが出來るといひました。王樣には此度は多勢の家來の者に云ひ付け、國中にある凡ての金庫から牛車に引かせて、ありきりの金を集めて來て其袋に一杯入れました。すると力強い樵夫は其家の樣な大きな財布を平氣で肩に掛けて外の五人と一緒に出ました。王樣はます／＼吃驚しましたが、何しろ國中のお金を皆持つて行かれてはたまりませぬ。ソコで何千人の兵隊に云ひ付けて太郎などの後を追つかけて六人共殺してしまひ、そうして其金を取り返して來いと言ひ付けました。兵隊の者共は王樣の言葉に從つて、急いで太郎など六人の連に追ひ付いて散々に攻めかけました。すると太郎の方では例の鼻息の名人がナニ小癪な瘦兵隊、そんな不都合なことをするのなら、ひどい目に遇はしてやろうと云つて、勢込んで鼻息で吹き飛ばしました。サア一里も隔つた七つの車を易々と動かすほどの鼻息、夫れが勢込んで吹き出したものですから耐りませぬ。何千人の兵隊は木の葉が風に吹飛ばされるか、蜘蛛の子でも散るやうに、フラリ／＼と飛び上り、はね下がり、奴凧の樣に空に飛び上るものもあり、木の枝に掛つてわめくものもあり、岩角に頭を打付けて死ぬものもあり何千人の兵隊が殘らず散々の目に遇ひました。其中の大將がやつとのことで木の根にすがり付いて、降參だ／＼堪忍して呉れろ／＼と、泣く／＼あやまりますから、「それでは可憐そうだから耐へてやろうが、其代り早く歸へつて王樣に、尋常に國境まで送ればよし、左もなければ此國中を吹いて／＼吹き飛ばし、王樣の御城も屋敷も皆吹き飛ばしてしまうからと申上げるがよい。」と大威張、其者は仕方がないから歸つて此の次第を王樣に申上げますと、王樣も仕方なしに其いふなりに國境まで送ることにしました。ソコで六人の者はやす／＼其大金を持ち歸つて銘々にわけ、各々幸福に一生を過しましたとさ。　（蘆花生譯）

家庭園藝　二葉

●草花の蒔き方

この事に就いて今迄種々の質問がありましたので、時節柄少し委しく書つけました。そうして質問された方への、答とも致します。さて草花を蒔くに最初用意すべきは、

▲播種用土　であります。これは普通の畑土と砂と等分に混せ合したものを細かくし、出來得べくば一分半位の篩で一度通す方がよろしい。と云ふのは、正面の理屈で、美しく見事な花を咲かせたいからのこと、なにもそんなに大切にせず、庭のアチコチを掻き起して、バラ蒔きにしても丈夫な草花は立派に生ひ立つから、此の方法の難かしいのを面倒がつて、やがて餘裕が出來てからとか、暇をこしらへてからとかと遁げぬやう希望します。

▲播種箱　近來園藝が盛になるに連れ、斯樣な輕便

なものに因つて、種子を安全に播かれるやうになりました。播種箱と申せば何か舶來の器械らしく聞ゆるが、實は至極簡單、板屑と釘と山刀か大ナイフさへあれば、誰れにでも出來るものです。即ち、長さ一尺五寸内外に幅一尺内外、深さ一寸五分か二寸許の、底には徑三分か五分の孔を明た木箱であります。

實際此箱を使用しますには、之に前記の播種用土を、成るべく上方に細かなものが置かれるやう容るのですが、細土は底の孔から漏ります故、石か鉢の片で掩ひ、之を防がねばなりませぬ。併し、灌水などする時、餘分の水が、其石と底との間から漏れ出るやうに爲るのであります。さて、

▲播種用鉢　は種子を蒔くにも、その儘生長さすにもよけれど、兎角數多くを要し、不仕末不經濟に流れ易い故、成るべくは播種箱によるが便利でよろしい。併し、僅かの種子を播く者、手入法の異る草花等は、矢張鉢を用ふる方が得策だ。それには、東京附近なら今戸燒の平鉢で、徑五寸から一尺ぐらゐのがよろしい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

之等の準備が出來たら、

▲**種子の蒔き方**　である。之は種類によつて種子の大さ、生ふべき莖葉の形態生長の度により、大抵適度に蒔かれるとして、難かしいのは被ふ土の厚薄の加減だ。米國では種子の四倍の厚さを被ふがよいとして居れど、元來種子、の形が單純でないから横か、縱か、またちよつと置いてみた時の四倍ならば、極く薄平で、而も時には大きい種子があつて一概に云へぬ。けれど、經驗によると、種子を撒き終り、それから細土をバラ〳〵と撒布しながら注視して、先づ播いた種子が見えぬやうになつた所で、止めると云ふのが最もよいのである。併し、茲に例外たるケシ、シチラリヤ、ベコニヤなどは至極細いので、土を撒布すると浮き上つて、種子の見えぬ迄被ふのは少し厚過ぎるやうに思はれる。之等は一層種子を播いたばかりで、土を被はぬでも立派に育つから、それでよいとして置くことです。

▲**播種後の注意**　種子を蒔いて直ぐ太陽に當てるの、はよくないから、蘆簀などで被ふ方がよろしい。それかと云つて、新聞紙でべつたりと掩ふのは空氣の流通を妨げてイケませぬ。

床面が乾けば灌水せねばならねど、亂暴にやると種子が生へぬ先きに隣りへ流れて行つたり、或は沈み、或は浮き上りなどして思はしくない。そこで、最も安全な方法としては、播種箱又は鉢を、他の水を盛つた器の中へ一二寸も浸すことです。すると、底にある例の孔から水が浸入し、先づ其孔の附近から濕氣を吸ひ、毛細管引力によりて全面へ行き渡り、其目的を充分達せられます。また戸外に播種したものならば、掩ひさへしてあれば、灌水は自然に任せて、別にせぬ方がよろしい。

種子が愈々生えて出たら、蘆簀などの被ひを除いて、成るべく日光に當るやうにし、灌水も叮嚀にして、本葉が一二枚出れば、鉢または別に用意しある花壇へ移植するのです。以上は主に箱または鉢へ播種する方法であつたが、順序として少しく、

▲**戸外の播種**　に就て申し上げませう。是は畑また

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は庭の土を耕起し、細く砕いて均し、其上へ前の方に依つて播き付け、生る迄は最初に云つた掩ひをして置くのですが、箱や鉢のやうに持ち歩く譯けに行かぬから、細雨の時は蘆簀を除いて點滴の地を打つを避け、強雨の時は板か不用の破損雨戸でゝも一時被ふて、叩き出したり、流れ去たりする害を防がねばなりませぬ。次に注意すべきは鳥類及び犬猫の害であります。さて新に、

▲水生植物の播き方　に就き少し申します。これは案外簡易なもので、一器の三分の二位土を盛り、平にして種子を播き付け、水を靜かに少しづゝ容れて据え置けばそれでよろしい。が、盛夏其器内の水が熱し過ぎる心配ある時は、便宜日蔭へ移し置くことです。

▲羊齒類の蒔き方　元來羊齒とは裏白や葱草のやうな植物を謂ふので、不思議にも花が咲かずに種子が出來るのであります。是に就ては、少し難しい生態上の說明は要るが、兎に角さう思つて、扨て其種子を蒔てみると、之も案外容易に生える。即ち、煉瓦または瓦の片の雨風に曝されたのか、水苔かの上へ播き付け、乾燥せぬやうに注意すれば、遂に第一代の扁平體發生し、間もなく單性代の本植物が發生します。而して、適當の大さに生長すれば移植するのです。

▲外皮の硬き種子の蒔き方　蓮、梅、桃、カンナのやうに外皮頗る硬き種子は、溫湯に浸して其皮を緩ませて播種するか、芽の出る部分を切り、或は磨り取りて播種するかの二法位なものです。殊に、後の法は下手にやると大切な部分に傷をつけるから、充分注意せぬと仕損じます。尤も、梅、桃の實などは霜に逢はせると自然に皮が裂けるから、此の作用を應用するもよろしい。

▲簡易なる溫床　花を上手に作ろうと思へば先づ第一に溫床の必要を感じます故、一つ輕便なのを紹介しませう。杉または松など得易い板で、幅三尺に長さ六尺乃至八尺位、後方一尺、前方七寸許の木框を造り、カラス障子を以て其の上を掩ふやうな仕掛にするのです。而して、其框を園內適當の場所に南向に据ゑ、少し埋める位にして置くのです。扨てそれから種子を蒔くの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ならば、前の播種用土を適度に盛り、成るべく上方へ細いのを容れるやうにして播種するのです。播種後は日光の直射を避ける爲めに、布片または油紙を貼るか、或は白墨で塗るもよろしい。斯樣にすると、前に說明した戸外播種と播種箱內の播種との兩長所を兼ね收める譯けになり、且つ春早く蒔く時寒さの害を免かれ、茄子や胡瓜の苗を仕立て、早く栽培するには、下方へ發熱物(厩肥の如き)を入れて播種すれば、殊に好結果を呈します。

種子が生え出れば、硝子に施してある日光避を除き、硝子の後方を明けて空氣を入れ、或は全く取りて日光と空氣とに充分當て、以て苗を健康に育てるやう勉めねばなりませぬ。

●十月の園藝

種蒔きもせねばならず、接木、揷木、收穫など隨分多忙な月ですが、今や美しき花、味好き果物を賞したる後故、快く斯樣な世話もして下さると思ふ。さて此月より、

△播種すべきは、
水蘿蔔、壬生菜又は京菜、小松菜(上旬より)、菘菜、二年子大根、水葱(中旬より)、藥用人參、天師堂、豌豆等(下旬より)

△移植すべきは
柑橘類、梅、柘榴、山茶花、石楠花、茶、獨活、木賊(上旬より)、柿、桃、漆、山茱萸、阿利襪、山葵、百合(中旬より)、黃揚、櫻、五加、八手木、牡丹、延胡索(下旬より)

△分栽すべきは
夏葱、欵冬、韮、寒菊等。

△接木すべきは
葡萄、野木瓜、牡丹等にして、共に根接を可とす。

△揷木すべきは
野木瓜、葡萄、月花子、桑など。

△剪定すべきは
葡萄のみにして、蔓を整理する上に於て本月末が最も便利。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

親の教育

哀はれ懐し床しの童、汝より學ぶ百分の、一だに誨ふることを得ば、それより以上の學問も、得て享はじな我こゝろ（ワーヅウオース）

人は得て一定の紀律の下に服從する事を避けんとするものなるを、こゝに人の心には愛情と云ふものありて、その強烈なる力は却てこゝに快く服從せしめんとす。微妙なる天の配劑は實に嘆稱すべきかな。（スペンサー）

カソリック教徒なる一老人あり、養子を企てたるさる婦人に向ひ、「我友よ。御身が彼兒を教育して如何に成効せらるゝかは知らざれど、却て彼の兒がお身を教育する事は確かなり。」と云ひけりとぞ。兩親たる者、兒女の踐むべき道に從ひて彼等を教育するに當り、之と同時に兩親自身等がその爲すべき道に從ひて自ら教育しつゝあり、且つ兒女の教育と相馳せて、兩親の側には更に高等なる教育が遂行せられざる能ざる事に想到せば、其賴母しさと樂しさは果して如何にぞや。

ジョーヂ、エリオツトは其著「シラス、マーナー」の中に、小兒に依りて人心の冷々殆んど化石する計りなる寂寞より救はれ、如何に其感情が清新となりて回春し、新しき希望と活動とを以て皷翼せらるゝかを說く。而も前古に比なき此名著の眼目は極めて簡單なり。即ち、忠實ならぬ戀。詐りの友。人や神や、すべて萬物に信仰を失ひたるものゝ物語のみ。同輩より隔絕せられたる煢々自失の機織子が、悶々の諸情集中して一團となり、終に他人を顧みぬ黃白の奴隷となりし物語のみ。然るに、其人の貯財が突然隱蔽所より影を失し、代りに雪ふる一夜、火影微かなる竈前の床の上に、驚くばかり美しき金髮の嬰兒を發見し、以來、漸次其孤煢の人の胸に愛の再醒となり、愛は彼の望みと喜びとを常に金錢以上に引き進め、再び友輩と同情相待つの關係を結ばしめたりと云ふにあり。其中に曰く、

「昔しは天使あり、來りて人は手を引き、破滅の府より逃れしめき。今や吾人は白羽の天使を見る事なしと雖も、人は依然として迫り來る破滅より救はる。更にいへば、和風麗明の天地に靜々と人を導く手は吾人の手中に置かれて、吾人又顧慮なきに至る。而し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、其手こそ幼兒の手なれ』と。
兒女は兩親の靑春を挽回し、能く利己の岩に繋鎖せられずして、鷲の如き羽翼を以てそれ以上に登臨せしむ。
親の惡傾向は三代四代迄も其子孫に祟るは、各人の實驗したる所にして、吾人は兒女の性はすべて善なりとは信ずるものに非らずと雖も、然かも聖賢は誨ふるに兒女の無邪氣に倣ふべきを以てす。
歌に所謂る、

塵に汚れし都單めし　さびしき世路を辿々と　三十三とはなりにけり。

の吾人の狀態に比較すれば、無辜の小兒は實に慕ふに足るべからずや。
『小兒の如くに天國を見ざらんものは、何人も天國には入じ。』にて、小兒に依りて惡傾向は抑へられ、代りに善良なる行爲は暗示せらる。蓋し小兒は兩親をして、

罪いと深き言葉もて　此眞心をわが舌が　縛むる事知りし前
すべての罪を諸々の　意味に籠めて用ゐてふ　腹黑術を知りし前
天使の如く邪念なく　肉の衣越し常久の　光に浴し樂みし
ありし昔の幼き日

を回憶せしむればなり。
旅衣東の方、吾人の故郷なる神より吾人が日每に遠かるに至るや、神は吾人を呼び戻す爲に、さらずば逆旅を思ひ、再び古りにし跡を吊はしむる爲に、可愛き兒女を吾人の手に贈らる。
何事にもあれ、以て小兒に敎へんと欲せば、吾人先づこれを躬行すべく、親にして子の避くるを欲するものは、自ら先づこれを廢棄する覺悟なかるべからず。
曾て五歲の小兒が其父に云ふ所を聞きしに『御身よ、執拗なる勿れ。若し執拗ならば成長の日余も然かならん。』と。又、父母の膝のべに今祈禱を終りし頑是なき兒が、『母よ、余は何時祈を止むるを得んか。』と。母は打驚き『お丶富坊よ。何とてまたさる事を………』と問返せば『さればなり。母よ。父は決して祈禱を爲さず。余も早や祈禱を止むる程に生長したりと思へるのみ。』と。
幼少なる兒女にありては、摸擬の能力最も強く、彼等は年長者の爲すを見れば、何事をもこれに模せんとす。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

然らば、兒女よりも觀察せらるゝ所多しとなせる成人の前に於て語り且つ爲すを欲せざる事を、小兒の前なりとて之を語り且つ爲すは何たる僻事ぞ。吾人は『小供の外居合はすものなし。』など云ふべからず。小兒は言語に、相貌に、行爲に現はるゝに從つて、其眞意のある所を讀了し、注察し、心中にこれを咀嚼しつゝあり。縱し自己の爲ならずとも、兒女の爲を思へば、兩親等は每に能く自らを制して忠實やかに、萬に越ゑて公正を求むべし。小兒に正しき習慣を與ふる事は、彼等に惡習を與ふるが如くに容易なれば也。

　兩親の敎育は其長子の出生に始まる。若き男女は少なからず利己的主我的なるべきも、赤子が實際的基督敎義の敎師として、彼等の家庭に來るに及び、遂に彼等は思ひを自身以外の人に延ばし、又彼等の快樂と各自の習慣とを尠からず拋棄するに至る。蓋し、全家を擧げて最主要なる者はこの『赤子王』なればなり。兩親にして眞實兒女を愛すとせば、忠實なる習慣は幼時に於てこれを習得せしむべく、然らずば、他日兒女の不

正を兒女に責むる權利なきに至るべし。又同情の點に至りては、兩親等は悲しみにも喜びにも彼等の侶伴となるを要す。

　兩親が兒女の德性を涵養して、光輝あらしむるに全力を盡すべきは勿論の事なるが、また單に兒女のさかしき質義に答へん事も、智能にすぐれたる人に取りて此上なき利益にして且つ困難の事業なりとす。小兒、何故に火の燃え、如何にして寫眞は製せられ、星は幾個あり、何故に人は病氣し、如何なれば世に惡事の行はるゝかを其兩親に質する時、無智に生長し、同情に缺けたる兩親は屢々彼を嘲笑して曰く、『小供は無興の質問を爲すべからず。』と。斯くては、啻に兒女の質疑心を抑ゆるのみならず、其疑問に答へんとする盡力より生ずる新智識をさへ失ふに至るなり。

『小兒には見せしむべし。聞かしむべからず。』とは理なき諺なるべし。且つ、小兒には愉快に學ばしめ、愉快に敎へ、若し彼等にしてこれを欲せざる時は、直にこれを中止すべし。英國百科全書の創編者、エデンボ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ル大學のロビンソン教授の如き人々すら、小兒よりの智的增益と快樂とを受けざるにあらず。教授は其孫に就て曰く、『余は孫の心靈の發達、殊に從來氣付かずに看過したる、幾多の本能性を觀察するを喜ぶ。其不作法なる、起居の我儘なる、機嫌のむつかしき、皆なこれ神のしわざにして、換言すれば、彼等の起居や、機嫌は其生命の保護者たり。發育たり。勢力たり。余は實に此等の兒女と、其勢力の發展とを以て、余の專門研究の科目となすの時間なきを恨む。』と。

或人々は小兒に小學校教育を與ふれば、以て兩親たるもの丶義務は完全に盡さると想像するが如し。彼等は外に學校教育のあると等しく、家に爐邊の教育あることを忘却するものなり。

學校に在りては、何等愛情の培養する所なし。否な、屢々其反對なる事相多し。信切なる家庭の勢力が、少年の智情に及ぼす價値こそ實に大なるものなれ。實に大なるものなれ。

* * * * *

小兒は兩親に對する天使なり。心に惡念の兆すを防ぎ、神の貴き面影を絕えず胸裡に描かしめんとて來れる天使なり。吾人は兒女の心中に罪惡の種子の動搖するを見る時、その未だ生じて芽とならざるの前、これを根本的に破滅せんとするは、如何なる打擲もこれに施して過重ならざるが如し。然れども、天は吾人に語りつ丶あり、『醫するものよ。先づ自らを癒する爲に大に打ちて骨身にこたへしめよ。然り、鞭を以て自身の罪惡を打出せ。汝の兒女をして罪なからしめんとせば、汝の情を抑へ、汝の欲を枉げ、汝の濁れたる希望に勝つべし。』と。

是れ實に神が小兒を家庭に植うる最要なる理由にして、神は、吾人が此神の意志と教誨とに隨つて、兒女を教育するのみならず、斯くする事に依りて、吾人自らも神に近付かん事を切望す。即ち、嵯峨たる人生行路の短程を終りて審判の日に來るの時、『吾人は此所に在り。神の賜ひし兒女に教育せられて此處に來れり。』と云ひ得せしめん事を、神は吾人に欲するなり。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

結婚後の女子と舊師友

松の舍

一般に申せば、結婚なるものは女子に對しては少くとも其舊師友との交際間に一大牆壁を築くものと思はる丶。

其の學校に在るや、我が惠深き恩師として日々敬愛の情に堪へざりしものも、一度出で丶人に嫁するや、新婚が家の事にのみ追はれて、さしもいつくしみし恩惠の師をも顧る暇なきのみならず、若し、新婚たるものにして、這般の消息を了得せざるか、假令了解するも餘程の意をこれに用ゐざる時は、日を追ひ、週を重ね、年幾度と經るに隨ひ、終に全く其師を忘却し去ることになる。

結婚が女子の舊友に及ぼす影響には殊に口惜しきものがある。共に學びの庭に在りて、机を並ぶる間は、貧富、身分等の差別は強がち立られなかつても、さてお互に人に嫁するや、新婚たるもの丶さま〲なる貧格、身分、貧富等によつて、妻たるもの丶身分に一々相異りたる差別が著しく建設せられて來る。此の場合に於いて餘程心に修むるところがない時は、——實際此が多くの場合であるが、——お互が昔の情誼は全く地に棄てられてしまひ、位高きに嫁せるは低きに傲り、低きは高きを妬み、富めるに嫁せる者は貧きを侮り貧しきは富めるを惡む等、世にもさもしき行爲をなすに至るものが多い。

女子といふものは妬み、猜み等の心多きため細かきところに相爭ふことありて、一層舊知友との交りも冷え易いもの、たとへ外面美しく交るとも、心の底には相反目するなどの忌しきこと多きが常。

此廣い世界に、同一の學びの園に遊び、日夕、悲しさ、苦しさ、嬉しさ、樂しさ等を共に味はふことになつたのは決して偶然でない。さるを結婚せるが爲に相顧ずなり、甚しきは、相妬み、相惡む等の行爲に出るは實に口惜しさの限ではあるまいか。

さて、予の妻の舊友といふは、多くは未だ學生であ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るが忙しい中にも予は可成的多く書信を送らしめ、時には自身代筆して義務を實行することさへある。今茲に予が妻の許に來りし書翰中、舊師のを一つ舊友よりのを一つ、餘白を借りて記載して見よう。

一、在カナダなるミス、ビーセーといふ米國婦人（舊師）の許より。（六月廿七日發）

親愛なるおきよさん。

此前御目にかゝつてからあなたは奥樣におなりなさつても、私には學校時代のお名の方が自然に出て來て、內藤婦人などゝは申しにくゝ、おきよさんなどゝ申しましたが御許し下さいよ。

去る春、御手紙を頂戴いたしたるところ、あなたには御目出度御結婚なされ、尙引き續き英語を御學びとのこと誠に嬉しうございます。

尙、あなたは引き續き聖書を御學びとの事を承つて嬉しう存じます、といふのは外でも御座いませぬ。御承知の通り、該書はあらゆる書籍中、最も重要なものでございまして、一生涯讀もうとも常に新しい美が發見さるゝのでございますからです。

私が續々あなたに御願ひいたしますことは、何卒幸福なるクリスチャンホームを御營みになつて、日々益々御幸福に、且つ眞に御暮しなされたきことです。…………中略…………

私は戰報を聞いて誠に愉快でございます。そして早く平和になり、此大血戰の後には永久日本の大繁榮あらんことを祈ります。………

……以下略……………

一、東京なる一舊學友の許より。

「あの奥樣如何でいらつしやいますか。嘸かしこのあつさでは、たゞでないお體……お察し致します。東京は大さうお暑いのよ。毎日〳〵汗びつしよりよ。學校はいよ〳〵昨日限り。やうやくこちらのものとなし、誠に〳〵嬉しいのよ。此度れクラス、レターを出しますから何卒おもしろいお話澤山聞かして下さいよ。

いろ〳〵奥樣の世帶の經驗話しれ、或は婚禮の時の嬉しかつたり、耻かしかつたりしたことやらいろ〳〵お話しれ。

私れ今こうやつてお手紙を書いて居りますとあなたの御家のことやら何やかやと想像されてよ。

學校は近頃いろ〳〵の會が出來てあなたがいらしつた時よりは餘程進歩しました。そして皆さんがよく働くやうになりなされ、前の樣に恥かしがらなくなりましたよ。…………以下略………

六月九日夜　光子

…………………………………………

舊師よりは何時もながらよき教訓を得、舊友よりのは、さば〳〵と面白く無邪氣に書れて其中には温き友情が滿ち〳〵てゐるのである。

破鍋綴蓋の記

（予の再婚に就て）

堺利彦

△予は再び結婚した。或人は之を笑ふかも知れぬ。或人は之に眉を顰めるかも知れぬ。然しながら予に取りては是れ只だ自然の成行である。

△予と延岡爲子とは久しく共に平民社に住んで居た。予年三十六、彼年三十四、予は去年妻を失へるの人、彼は十年前、故ありて其の夫に別れたるの人、日夕相親むに連れては、此の二個のキツ者の間に自然の因緣の熟せんとするを感じた。

△去年以來、或人は予に再婚するなと勸めて吳れた。或人は又頻りに早く再婚せよと勸めて吳れた。甚だしきは既に一二の候補者をさへ定めて予に迫つた。然しながら、予は敢て再婚を非として、此の主義を以て後半生の妻と爲すと云ふが如き淸高の士でもなく、さりとては又、美にして且つ賢なる若き人を、廣く世に求めると云ふが如き野心も無かつた。予は今更、仲人の骨折に依つて、曾て相識らざる人と相約し、一夜盃を擧げて忽ちにして身心相許すと云ふが如き、古風の結婚法に從ふには堪へぬ心地がした。而して予は只だ自然の成行に任せる事にした。而して其の自然の成行は遂に破鍋と綴蓋との間に因緣を結ばせた。予は實に自然に與へられたるかの感を抱いた。

△然るに、それと同時に、予は餘りに早く再婚せんとするのでは無いかと云ふ感じも起つた。又、斯くの如き成行の結婚は世の物議を招くに足るでは無いかと云ふ危みも起つた。然しながら予は既に情を匿るに忍びなんだ、又策を弄するにも堪へなんだ。幸德君出獄の數日前、平民社の敗革は眼前に迫る、予は別に家を持たねばならぬ、彼是の事情は遂に予をして現はに結婚の申出をなせしむるに至つた。而して彼は直ちに之を承諾した。彼れの心中の消息に至つては、予の玆に語り得る限りでない。

△斯くて予は、幸德君出獄の數日後、此の事を親近の諸友人に告げた。果して或人は眞卒に再婚の餘りに早きを責めて吳れた。果して又或人は親切に世の物議を氣遣つて吳れた。然しながら或人は又「天眞でやれ、天眞でやれ」と勵まして吳れた。予は多少躊躇した。然しながら遂に決した。

△爲子は、予が家を持つと同時に、其の母の同意を得んが爲に鄕里金澤に歸つた。彼が多少の準備を整へて再び上京したのは九月五日であつた。其の夜、友人親戚十餘人を予の家に招いて内相官邸燒打の噂を聞きつゝ、結婚の略式を擧げた。

△予等に取つては、結婚の式と云ふが如きは殆んど無意義の感がある。互ひに深く相愛するを信じ、將來渝るとなく、別るゝとなきを信ずる以上は、媒酌人の、盃のと云ふが如きは、殆んど滑稽の感を生ずる。然しながら風俗變遷の此の過渡時代に於て、姑く舊慣に從ふも亦た一つの趣きであらうと云ふので、依然たる舊式の謂はゆる三々九度の眞似をやつた。而して其の媒酌人は、予の前婚の媒酌人たりし永島今四郎氏夫婦であつた。其夜前席の人々は、木下尙江、同操子、山路彌吉、福田英子、幸德傳次郎、加藤時次郎、同さき子、堀成之（予の前の妻の兄）、同保子（予の前の妻の妹）、志津野又郎（予の從弟）の諸氏であつた。

△「予の半生」を世に公けにしたる予は、最近の此の事件に關して、亦た其の成行と感想とを公けにするが當然であると思ふ。依て茲まし斯くの如し。

筆ついで

●さる人の話

○日本程茶を飲む國はない、朝往かうが晩に往かうが、晝往かうが、又人足が來やうが車夫が來やうが、誰でも構はぬ、どうしても茶を出さずには承知しない。彼處の家に往つたけれども茶一杯飲ませないと云つて小言を云ふが、そんなに人は喉の渇くものであらうか。唯これは習慣で、往けば必ず茶を出すもの、火鉢、煙草盆を出すもの、又少し宜い所になると必ず茶菓子を出す、華族の家にお訪ねすると必ず恭々しく奉書紙に包んだお菓子が出る。それを頂戴せぬと御立腹になると云ふ話、併しそれは難有迷惑であるが仕方がないから貰つて來る。一日の中に何十人罷出ても、一々お客にお菓子を下さる、一ケ年の内には、これは相應な失費であるだらう。實に無益の話ではないか。上の好む所下焉より甚だしきものありで、私の妻なども客さへあればお菓子を出さなければならぬものと心得て了つて、幾ら小言を云つてもこれは止まぬ。餘計な事と知りつゝせなければならぬと云ふのは困つた話であるが、そうしなければ世人も承知せぬだらう。或は惡口を云はるゝ虞があるから已むを得ず其眞似をすると云ふ始末、私は色々家庭の經濟の事に就て考へて居る事もあるが、一つも實行は出來ない。

○それから日本の醫者に就ても氣に喰はぬ事が隨分多い。少し上等な醫者になると忙しいとか何とか云つて容易に來て吳れない。眞に忙しくて來られぬなら宜いけれども、大臣とか何んとか云ふと屹度出掛けて行く均しく忙しいなら大臣の所へも行き得られぬ筈、人を見て往くのである。大臣の命も我々平民の命も地位に於てこそ高下があるけれども、命に於ては一つも輕重はない。我人共に同じやうに惜しいのであるから、其命を助ける職分に當る人が、其位地の高下に於て忙しいの何んのと云ふ事を云はれては甚だ困る。無論、醫者も矢張商賣であるから診察料の高下に依つて區別をするかも知れぬけれども、商賣と云ふ內にも人情と云

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ふものを含めて貰はねばならぬ。今一つは此醫者が乘る所の車である。病家から其車夫に――祝儀と云ふが――祝儀か何か知らぬが兎に角出すと云ふ習慣になつて居る。これが非常に私は氣に入らぬ。なぜ車夫に祝儀を遣らなければならぬか、なぜ醫者自身が雇ふて居る人間に病家の者が心付をせねばならぬか。實に餘計な手數である。經濟のことは別として、手數も宜いが此お醫者さんの車夫に心付を遣るにも遠近に依て差がある。又醫者に依ても區別がある。甲には五十錢遣るとか乙には三十錢遣るとか餘計な心遣ひをしなければならぬ。夫れが爲に私の緣家では非常な混雜を惹起した事がある。其緣家は貧乏で、通常其邊に來る其醫者の車夫は確か五十錢取るのが常であつた。それを二十錢か三十錢を遣つた所が、車夫が怒鳴り込んで大騷ぎをした。病人も殆ど目を廻したと云ふ事がある。實に不體裁不都合極まる話。それでまこと病家から車夫に遣らなければならぬものは、醫者自身に拂つておいて、後で病家から取る樣にしたいもの。

○少年叢書　「由分社少年叢書」第一册は別項廣告の通り、先月の十五日と申すのが、この月の十日に出來上る事になりましたから、一寸御斷りを致して置きます。

○暗示の天地　今年も早や四分の三迄過ぎて、殘るはもう百日に足らぬ僅かな日子です。而も其百日や夏の間に怠けた負債を消却せねばならぬので、實に多忙を極めるのであります。床の下にはもう蟲が「綴刺せ」を鳴き、哀れに萎れた庭の草花は、色のあせた顏に最後の笑みを浮べて、「さようなら」を會釋して居ます。何となく心細い。天地は丸で冷やかな暗示で以て滿ち〳〵て居るやうです。我等は今此數多き暗示に對して、如何にこれを解釋すべきや。

○佐野の『愛讀者』へ　御手紙のやうな文字を見るのは、ます〳〵奮起の志を固くするばかりです。月二回の發行はどうでせうか。俄かにお答へする事は出來ません。

○外山君へ　君の如き知己を持つは、眞に心强しと云ふべしです時々感想を寄せられたし。

○「火鞭」　新しく出た文學雜誌、流石に一種の主義の上に立つて居る人の集り丈に、同種類の雜誌の浮華に染まず、儼然として一頭地を拔いて居る。文學好きの方には是非此火鞭を推薦したいと思ふ。

○「その日〳〵」　讀賣新聞の小劍君の短文集。曾て日々の紙上を得るがまゝに登載したものをば、此度一册の本となつた。中にも皮肉なのもあり、可愛いのもあ爲、兎に角小劍君獨特の妙味が味はれるので、

由分社の擴張

◎由分社は最初堺利彦の創立したものでありますが、中ごろ堺生が平民新聞を發行する事となりました時、到底手が廻りきれぬので暫く其の關係を離れ、編輯は西村渚山氏之に代り、庶務は小林助市氏之に當る事となりました。然るに其後又色々な事情がありまして、小林氏は其の關係を離れ、此たび堺生が再び其の經營に任ずる事となりました。それと同時に平民社の書籍出版部は總て之を由分社に合併する事となりました。

◎それで由分社は家庭雜誌の外、今後少しづゝ出版を試むる計劃で、其の第一着手として『少年叢書』を出す事に致しました。

◎いづれ我々の事業は、資本の無い、氣の利かぬ、素人商賣の事ですから、到底花々しい遣り方は出來ませぬ。只だ忠實と正直とを以て諸君の同情に依賴するのであります。

◎家庭雜誌の編輯は、西村渚山氏が其の清新の趣味と其の老熟の技倆とを以て、是までどほり擔任せられます。猶ほ其の事務の方面は、本社員堀保子、主として之に當る事と致します。此上ながら何卒諸君の御援助を願ひます。

明治三十八年九月

由分社にて　堺利彦

由分社少年叢書

第一冊（十月五日發行）

目のある人（堺利彦作）

三人大男（堺利彦作）

▲此の叢書の特色は第一面白く、第二分りやすく、第三爲になるに在り

▲此の叢書數冊を家庭に置かば、男の子も、女の子も、姉さんも、兄さんも、おッかさんも、おとッさんも、皆な樂しんで讀むを得べし

▲毎月一回一日發行▲四六版美本▲一冊定價十錢（郵税共）▲半年分（六冊）前金五十五錢▲一年分（十二冊）同壹圓

▲第二冊（十一月分）は雪姫物語（アンデルセンお伽話、白柳秀湖）▲第三冊（十二月分）はクリスマス（基督祭）の話（西村渚山）▲第四冊（一月分）は題未定（堺利彦）の筈にしてあります、

發行所　東京市麹町區元園町一丁目　由分社

（發行日及び表題等種々の事情の爲め前號の廣告と相違せる點あり、御諒恕を仰ぐ）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ローヤル水ハ

最モ高等ナル最モ進歩セル最モ名譽アル化粧水ナリ

定價 拾錢 拾五錢 廿五錢

ローヤル白粉ハ

最モ改良セル最モ優等ナル無害ナル白粉ナリ

定價 拾錢 拾五錢 五拾錢

發賣元 ・つやぶきん 東京銀座壹丁目 佐々木商店

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

輕便 瓦斯の煮燒 德用

瓦斯は燈火用の外料理其他一般の煮燒用として使用は輕便マッチ一本あれば晝夜何時にても即時に用を便じ火力加減自在にして火災の危險なく且大に手を省き費用は薪炭よりも低廉なり

○三升の米は瓦斯代僅に一錢七厘時間十六分にて炊くを得べし

○瓦斯竈は本社の發明品にて專賣特許を得たるものにして瓦斯消費量少なく德用便利也

○工事費は前金拂は一割引とし又月賦拂にて約定す

○臺所竈、七輪、湯沸、風呂並煖爐等に專用の瓦斯代は特に定價の二割引とす

尚各種式新器具は當社構内陳列所又は銀座陳列所きへ陳列縱覽に供居候御立寄御一覽被下度候

東京神田錦町

東京瓦斯株式會社

此清心丹は全國到る所にあり

ニッケル罐入にてポケット用に適す

清心丹

清心丹は四季欠くべからざる懐中要薬にして心神の鬱憂を散じ食物の消化を補ひ風土變り水あたり船車の不快等に卓効あり

東京市元大坂町
高木與兵衛

旅行又は平常携帯に便利也

飯倉四ッ辻 飯倉支店 電話新橋一五七四番

赤坂表一丁目 赤坂支店 電話新橋二〇六八番

四谷大通り 四谷支店 電話番町五一〇番

牛込神樂坂 神樂坂支店 電話番町六三〇番

本郷一丁目角 本郷支店 電話下谷七一二番

神田須田町 須田町支店 電話本局二〇七三番

銀座一丁目河岸通り

帝國貯蓄銀行

（電話 新橋）八一六番 二八〇八番

兩國米澤町 米澤町支店 電話浪花二五九〇番

淺草吾妻橋通 吾妻橋支店 電話下谷七三番

南品川一丁目 品川支店 電話新橋一一三九番

横濱吉田町 横濱支店 電話横濱一三〇四番

日本橋坂本町 代理店 田中銀

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

腦病 靜靖丸 頭痛

腦力を明快にし腦病神經病を全治す

腦病 にて常に頭重く、記憶弱力く、忍耐力薄く、氣欝ぎ、不眠、頭痛を煩ふ人

神經 症にて僅の事を苦慮し、常に動悸、息ぎれを感じ怒り易く、悲み易く、心弱き人

逆上 症にて常に顔紅く、頭痛、眩暈し、耳鳴目かすみ、肩凝り背重く、便通少なき人

頭痛 症にて學生の常に煩ふ勉學性頭痛、感冒、徹夜、苦慮等より發する者其他總ての頭痛及び頭痛持の人

不眠 神經家又は老人等の夜分安眠を得ざる人、亦は苦慮、悲痛、等にて眠むられざる人

其他常に腦を勞する人及神經家亦は大酒家、肥滿家は持藥として此藥を服用せらるべし腦力を强健にし精神を快活ならしめ、中風、卒中風を豫防する希有の偉効あり、

藥價（二日分弱金拾錢　廿二日分（常備用）金壹圓　十日分金五拾錢 / 六日分金三拾錢　四日分金貳拾錢）

本舖 東京市日本橋區藥研堀町 藥劑師 高木與八郎

逆上を引下げ睡眠を催し頭痛を即治す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

慈善券

ライオン歯磨小袋入に添付せり詳細は
實物に就き御承知あらんことを乞ふ

北米セントルイス萬國博覽會

名譽銀牌受領

發賣元　東京　小林富次郎

粉製　**赤鑵入**　發賣

意匠嶄新且つ優美なる彩色鑵入にして頗る携帶に便なり
能く香氣の發散を防止し終に至る迄本品獨有の佳香を保つを得べし
遠征の士其他旅行用に適せり

定價一箇拾貮錢

發兌元　大阪　小林支店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA